



發 刊 登 録 番 号

51-6110000-000872-01

SEOUL CITY WALL
 GUIDE BOOK

漢陽都城 ソウル

ソウルハニャン(漢陽)都城への思いやり

- ・ハニャン都城は自然と人、伝統と現代が調和した大切な私たちの文化遺産です。
- ・ハニャン都城周辺には多くの文化遺産があります。
併せてご覧いただきますと、一層お楽しみいただけます。
- ・内四山の自然も大切な遺産です。登山の際は引火性物質の所持や使用を禁じます。
- ・町の近辺では住民の迷惑にならないようにご注意ください。
- ・駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

目次

ソウル漢陽都城とは

- 04 ソウル漢陽都城
- 06 歴史を抱く
- 08 人生を込める
- 10 未来を描く
- 12 美しいソウル漢陽都城
- 14 ソウル漢陽都城の全図

ソウル漢陽都城区間のご案内

16 ペガク(白岳)区間

- 18 白岳区間 1：チャンイムン(彰義門) ➡ 白岳曲城
- 20 白岳区間 2：白岳曲城 ➡ ワリョン(臥龍)公園
- 22 白岳区間 3：臥龍公園 ➡ ヘファムン(恵化門)

24 ナッサン(駱山) / フンインジムン(興仁之門)区間

- 26 駱山区間 1：恵化門 ➡ 駱山公園ノリマダン
- 28 駱山区間 2：駱山公園 ➡ 興仁之門
- 30 興仁之門区間：興仁之門 ➡ チャンチュン(奨忠)体育館

32 ナムサン(南山、木覓山) / スンニェムン(崇礼門)区間

- 34 南山(木覓山)区間 1：奨忠体育館 ➡ 南山公園バス停
- 36 南山(木覓山)区間 2：南山公園バス停 ➡ ペクボム(白凡)広場
- 38 崇礼門区間：白凡広場 ➡ トニムン(敦義門)の跡地

40 イヌアンサン(仁王山)区間

- 42 仁王山区間 1：敦義門の跡地 ➡ 仁王山曲城
- 44 仁王山区間 2：仁王山曲城 ➡ 彰義門

ソウル漢陽都城の情報

- 46 昔の絵と写真の中のソウル漢陽都城
- 48 地下鉄で訪れる都城周辺の名所
- 49 ソウル漢陽都城の関連機関
- 50 ソウル漢陽都城周辺の名所

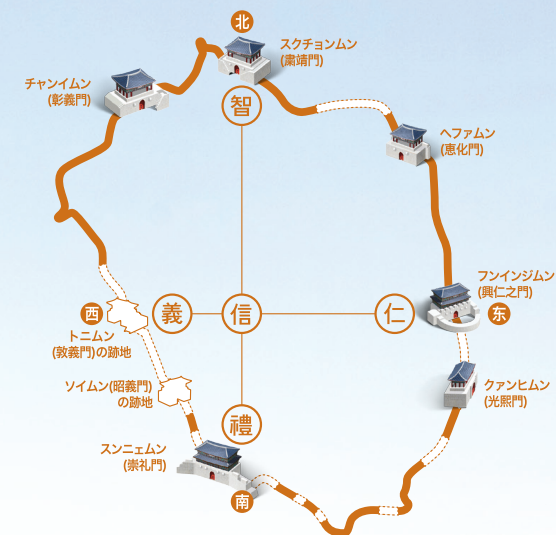
*「キョンギ(京畿)監営図」の一部【19世紀 | サムスン美術館 LEEUM 所蔵】
トニムン(敦義門)からイヌアンサン(仁王山)山脈に沿って伸びるハニャン(漢陽)都城の姿がよく描かれている。ソウル赤十字病院の入口にはキョンギ監営の跡地を表す標石が立っている。

ソウル 漢陽都城

[史跡 第10号]

ハニャン(漢陽)都城は朝鮮王朝の都であるハンソンブ(漢城府)の境界を示すことでその威厳を表わし、外部の侵入から都を守るために築造された城である。テジョ(太祖)55年(1396)に、ペガクサン(白岳、北岳山)・ナクタサン(駱駝山、駱山)・モンミョクサン(休覓山、南山)・イヌアンサン(仁王山)の内四山の尾根に沿って築造した後、幾度も改築を重ねられた。高さの平均が約5~8m、全長約18.6kmに及ぶハニャン都城は、現存する世界の都城の中で最も長い間(1396~1910、514年間)都城としての機能を果たした。

ハニャン都城には4つの大門と4つの小門が建てられている。四大門とはフンインジムン(興仁之門)・トニムン(敦義門)・スンニェムン(崇礼門)・スクチョンムン(肅靖門)のことで、四小門とはヘファムン(恵化門)・ソイムン(昭義門)・クァンヒムン(光熙門)・チャンイムン(彰義門)のことを指す。このうちトニムンとソイムンは滅失された。また、都城の外へ流れる水路としてフンインジムン周辺にはオガンスムン(五間水門)とイガンスムン(二間水門)が築造された。



*ソウルハニャン都城のペガク(白岳)区間の全景

歴史を 抱く

首善全圖



*首善全圖[1840年代 | キム・ジョンホ(金正浩)作木版本 | 宝物 第853号 | 高麗大学博物館所蔵]

「首善」とは、『史記』の「建首善自京師始」、すなわち、「(世に)冠たる善を建てるものは京(ソウル)から始まる」と記されたことに由来する。
「首善全圖」は、つまり「ソウル全圖」を意味する。

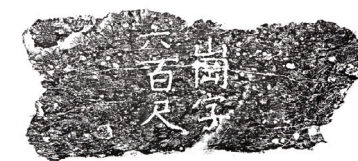
漢陽都城には私たちの歴史すべてが刻まれている。三国時代以来、我が民族が発展させてきた築城技術と城郭構造が受け継がれている上、朝鮮時代の城壁築造術の変遷や発展過程までがそのまま反映されている。最初に築造された当時の姿はもちろんのこと、後に補修・改築された後の姿まで保持されているため、城壁を見て回るだけでも、歴史の足跡を垣間見ることができる特別な文化遺産である。

都城が初めて完成したのは約620年前である。テジョ(太祖)5年(1396)旧暦1月9日から2月28日までの49日間と、8月6日から9月24日までの49日間、計98日間をかけて、全国の農民約19万7千4百人を動員して築かれた。全工事区間(計5万9,500尺)は600尺の97区間に分けられ、各区間は千字文の順に名前が刻まれ、郡県ごとに割り当てられた。初めて築城されたテジョの時は、平地は土城で、山地は石城となっていたが、セジョン(世宗)の時の改築の際に、土城の部分もすべて石城に変えられた。年月が経って城壁の一部が崩れたため、スクチョン(肅宗)の時に大々的に補修・改築が行われ、その後も幾度かの整備が重ねられている。一部の城石には築城の際に刻まれた記録が残されているが、テジョ・セジョンの時は区間名や担当の郡県名が、スクチョン以後は責任の所在を明らかにするために監督官・責任技術者・日付などが明記された。

都城は近代化の過程でかつての姿がかなりの部分失われてしまった。1899年に都城の内外を繋ぐ電車が開通したことにより、最初に城門の機能が失われ、1907年にスンニェムン(崇礼門)の左右の城壁が撤去されてから破損が激しくなった。その後の1908年には平地の城壁のほとんどが取り壊された上、城門もその姿が失われた。ソイムン(昭義門)は1914年に取り壊され、トニムン(敦義門)は1915年に建築材料として売却された。クアンヒムン(光熙門)の門楼は1915年に崩壊し、ヘファムン(恵化門)は1928年には門楼が、1938年には城門と城壁の一部が取り壊された。日本帝国は1925年にナムサン(南山)の朝鮮神宮とフンインジムン(興仁之門)隣のキョンソン(京城)運動場を建設する際にも周辺の城壁を壊して城石を石材として使った。民間人も城壁に隣接している家を建てる際に城壁を壊したり、解放後も道路・住宅・公共の建物や学校などを建てる時にも城壁が取り壊されることが繰り返された。

都城の修復は1968年1・21事態直後にスクチョンムン(肅靖門)周辺から始まり、1974年から全区間に拡大された。しかし、一度破壊された文化財を完全に修復することは容易なことではない。かつては切れている区間を繋げることに重点が置かれ、むしろ周囲の地形と元の石材を毀損することも少なくなかった。ソウル市はハニャン都城の歴史性を温存し世界の文化遺産として残していくために、2012年9月にハニャン都城都監を新しく編纂し、2013年10月に国際基準に準拠したハニャン都城保存・管理・活用計画を策定した。

都城は、2014年現在、全区間の70%、総12.8kmの区間が残っているが、修復された。スクチョンムン・クアンヒムン・ヘファムンは修復されたものの、クアンヒムンとヘファムンは本来の場所ではない所にやむなく建てられた。元の場所に戻すためには市民の知恵を集める必要があり、築城術などの無形の資産を発掘することにも努めなければならない。



【崗字六百尺 刻字城石】 ナムサン(南山) J-Gran House ビルの土台から「崗字六百尺」と刻まれた城石が見つかった。これはハニャン都城の97の区間のうち、崗字区間600尺の始発点という意味である。しかし、残念ながら刻字城石の元の位置は確定できない。ナムサン(南山) J-Gran Houseを建てる際に、城壁を取り壊した石材が石垣に使われたためである。



【ナムサン会賢区間、ハニャン都城発掘現場】 ナムサンの北西一帯の裾は、日本帝国が朝鮮神宮を建てながら城壁を壊した区間で、2013年に地面に埋もれていた城壁の一部(94.1m)が発掘された。テジョの時に初めて積み上げた石と、セジョンやスクチョン以後、補修を繰り返しながら積み上げられた石が次々と姿を現し、ハニャン都城600年の歴史を証言している。

人生を 込める



ソウル漢陽都城のナッサン(駱山)区間の暗門

約600年間、ソウルの垣根としての役割を果たしたハニャン(漢陽)都城は都城民の日常生活にも大きな影響を及ぼした。ポシングク(普信閣)鐘樓に吊り下げられている巨大な鐘は城門の開閉時刻を知らせ、夜明けには33回、夜は28回鳴らされた。夜明けに打つ鐘はバラ(葩ル_罷漏)、夕方に打つ鐘はインギョン(人定)と呼ばれ、民家の門扉もこの鐘の音に合わせて開閉されるなど、城門の開閉時刻は都城民の生活リズムを左右したとも言える。

ハニャン都城はソウルと地方を分ける境界線であると同時に、生死を分かち境界線でもあった。王も民も一生を終えた者は必ず都城の外に埋葬されるため、ソウルの人々にとって都城は「生きる」ことの証でもあった。

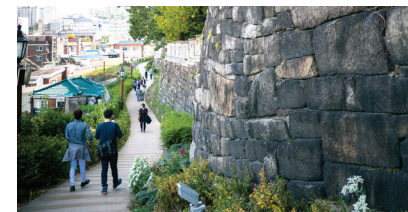
遠方から上京する人々にとって、ハニャン都城は喜びの象徴でもあった。幾日もかけて歩き続けてきた人々はハニャン都城を遠目で見て、「やっとハニャンに着いたか」という安堵感に包まれたに違いない。特に科挙試験を受けるために上京したソンビ(儒学者)の場合は、都城の中での生活を目指して、昼夜を問わず本を読み続けてきただけに、彼らにとってハニャン都城は格別な意味があったのである。科挙試験を受けにきたソンビの中にはハニャン都城を一周しながら合格を祈った人も大勢いたと言われる。その光景が都城民たちに伝わり、「スンソンノリ(都城巡り)」という遊びに転じた。チョンジョ(正祖)時代の学者であるユ・ドゥッコン(柳得恭)は、『京都雑志』で、巡城ノリについて「都城を一周しながら都城内外の素敵な景色を眺める遊び」と説明している。彼の息子であるユ・ボンイェ(柳本芸、1777～1842年)も、『漢京識略』で、「春と夏になると、ハニャンの人々はペアを組み、都城の周囲を一周しながら景色を楽しむ」と記している。

ハニャン都城はソウルと地方を分ける第一の境界でもあったが、これらをつなぐ媒介でもあった。都城の中では採石が禁止されていたため、築城に必要な石はすべて城の外から調達せねばならなかった。城壁はベガクサン(白岳山)・ナクタサン(駱駝山)・モンミョクサン(木覓山)・イヌアンサン(仁王山)の尾根の上に築かれているが、それに使われた石はブッカサン(北漢山)とアチャサン(峨嵋山)の一带から運ばれたものである。ハニャン都城は内四山と外四山を繋ぎ、都城内と城底十里(城外の十里)を統合していた。

ハニャン都城を中心に都城の防衛体制が完成した。ハニャン都城は防御施設としての機能はさほど果たせなかった。壬辰倭乱(文禄の役)、丙子胡乱など、外部から侵略された時はもちろん、内乱の時ですら都城を守るための戦いが行われたことはなかった。王をはじめとする支配層は都城を捨て、力のない農民だけが残って苦難に立たされることが繰り返された。百姓の間から、「頑張って城を築いても何ら役にも立たない」という不満の声が出るのも当然であろう。ヨンジョ(英祖)27年(1751)9月11日、ヨンジョは「都城を守ることは民のための事である。変乱が起これば、予が先に都城の上に駆け上り民と一緒に戦う」という内容の守城諭旨を宣布し、都城を死守するとの覚悟を明らかにした。加えて、都城民にはそれぞれ担当区域を割り当て、有事の際は武器を持って担当区域を守るように命じた。都城民を主体とする都城の防衛体制が完成したのである。



【ヘファムン(恵化門)】都城の外から眺めたヘファムンの姿。ヘファムンはハンソンからウィジョンブ(議政府)とボチョン(浦川)へと通じる重要な経路であった。



【ナッサン(駱山)区間】現在のソウルの境界は内四山を越え外四山まで拡大されている。600年前、ハンソンブ(漢城府)の外郭境界であったハニャン都城は、現在、首都ソウル中心部の文化財となっている。

未来を 描く

ハニャン(漢陽)都城は、山城と平地城を同時に築く高句麗以来の築城方法と技法が継承・発展された城である。ハニャン都城は宮廷を囲む王宮の城と、都城を守護するブッカン(北漢)山城・ナムハン(南漢)山城が一体となっている。

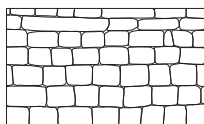
ハニャン都城は築造後からこれまで幾度も補修と改築が繰り返されてきた。城壁にはそれらの足跡がそのまま残っている。城石の所々に刻まれている文字や、時期別に異なる石材の形から、築城時期と築城技術の発達過程が読み取れる。ハニャン都城が現場の博物館(On-Site Museum)とされるのはこのような理由があるからである。



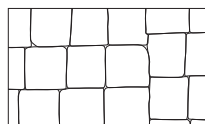
デジョ(太祖)の時代における都城の築造(1396)
1396年1月と8月、2回にわたって築城され完成した。山地は石城、平地は土城で築かれた。城石は自然石を荒く削ったものが使われた。



セジョン(世宗)の時代における都城の築造(1422)
1422年1月に都城が再整備され、平地の土城は石城に積み直された。城石はトウモロコシの粒の形に削られたものが使われた。



スクチョン(肅宗)の時代における都城の築造(1704~)
崩れた区間が数回積み直されたが、城石のサイズを横・縦それぞれ40~45cm程度の大きさに統一し、以前より強固な城壁に仕上げられた。



スンジョ(純祖)の時代における都城の築造(1800~)
精巧に削られた横・縦60cmほどの正方形の石が積み上げられた。刻字城石は女牆にある(現在、学術研究が進行中である)。

ハニャン都城は自然と一体化した特別な人工構造物である。昔から自然を大事に考える我が民族の意識は、自然地形をそのまま活かして築かれた都城にも表れている。自然との調和を考慮して築かれた城は、歳月が経つにつれ自然と一体化し、文学や芸術の素材となっている。

ハニャン都城は現存する世界の都城の中で最も規模が大きく歴史が長い。1千万の人口を抱える大都市にこれだけの規模の古城が残されているのは世界的にも珍しい。破損された区間があるとはいえ、現在は全体の70%がかつての姿を取り戻している。

ハニャン都城は世界文化遺産としてその価値が認められ、2012年11月23日、ユネスコの世界文化遺産暫定リストに登録された。ハニャン都城の世界文化遺産登録を目指すのは、先祖から受け継がれた「ソウルの象徴」をこれ以上壊すまいという決意の表れであり、都城周辺の自然景観と歴史景観を温存し子孫に伝えたいという誓いでもある。また、貴重な文化遺産を温存できなかったこれまでの反省の意味合いも含まれている。文化遺産を保存するために最も重要なのは、その文化遺産と共に生きる市民の愛情である。



ソウルハニャン都城のナムサン(南山)区間(チャムドゥボン(蚕頭峰)フォトアイランド)から見たソウルの景色

美しいソウル 漢陽都城

1 ソウル
漢陽
都城とは

漢陽都城の歴史的価値がわかるスポット

刻字城石が確認できるトンデムン
(東大門)城郭公園付近の城壁

→ 28p



刻字城石とは城郭の石に築城関連の文字が刻まれたものを指す。ナッサン(駱山)区間であるトンデムン城郭公園入口には城壁を整備していた時に発見された刻字城石が集められている。初期(テジョ(太祖)・セジョン(世宗))の刻字城石には、主に区間と築城担当の郡県名が刻まれているのに対し、朝鮮中期以降のものには、監督官・責任技術者などの名前と役職が明記されている。

漢陽都城の壮大さが感じられる
ナッサンカトリック大学裏通り

→ 26p



都城に沿ってできた巡城道はほとんどが城内に造成されているため、肩の高さほどの女牆だけを眺めながら歩くことになる。しかし、ナッサン区間の巡城道は城外に整備されているので、訪問者は城外の道を歩きながらハニャン都城の壮大さと頑丈さを感じることができる。

テジョの時代の築城方法がわかる
ナムサン(南山)東側の木製階段路

→ 34p



テジョの時代の城壁は、築城から約600年が経っているにもかかわらず、当時の姿が保持されている。特にナムサンの東尾根に沿って造成された木製の階段路のそばは、テジョの時代に築かれた城壁が一番よく見えるスポットである。

セジョンの時代の築城方法が
わかるチャンチュン(熈忠)体育館裏通り

→ 34p



チャンチュン体育館裏通りはセジョンの時代にトウモロコシの形に削った石を積み上げた城壁が残されている区間である。ここでは幾つかの刻字城石が見られるが、千字文の「生」の字(42番目の字)と、千字文「崑」の字(47番目の字)が刻まれた刻字城石も残されている。

漢陽都城の美しさが醸し出される名所

スンニェムン(崇礼門)とビル街との調和街の
中に佇み、より親しみを感じるハニャン都城

→ 38p



内四山の尾根に沿って連なり平地まで続くハニャン都城は、ソウル都心のビル街とも自然に調和されている。ソウル市民がいつでも気軽に足を運べる都心の文化遺産である。写真は2008年に焼失したが、2013年に復元されたスンニェムンと左右の城壁の姿である。

山勢に沿って連なる絶景
ベガク(白岳)の稜線に沿って起伏しながら自然の
一部となったハニャン都城

→ 18p



山の稜線に沿って起伏しながら続くハニャン都城の姿は荘厳である。ベガクサンとイヌアンサン(仁王山)の尾根に沿って無限に繰り広げられるハニャン都城は自然の一部となっている。写真はベガク(白岳)曲城から眺めたハニャン都城の姿である。

都市と自然との調和
人口1千万人の都市、ソウルを包み込む
ハニャン都城

→ 44p



イヌアンサン曲城の周辺から見下ろすと、イヌアンサンの裾に沿って伸びるハニャン都城がトニムン(敦義門)とスンニェムンを過ぎてモンミョクサン(木覓山)へ繋がっていたかつての姿が思い描ける。写真は新しく整備されたイヌアンサン西裾のハニャン都城の姿である。

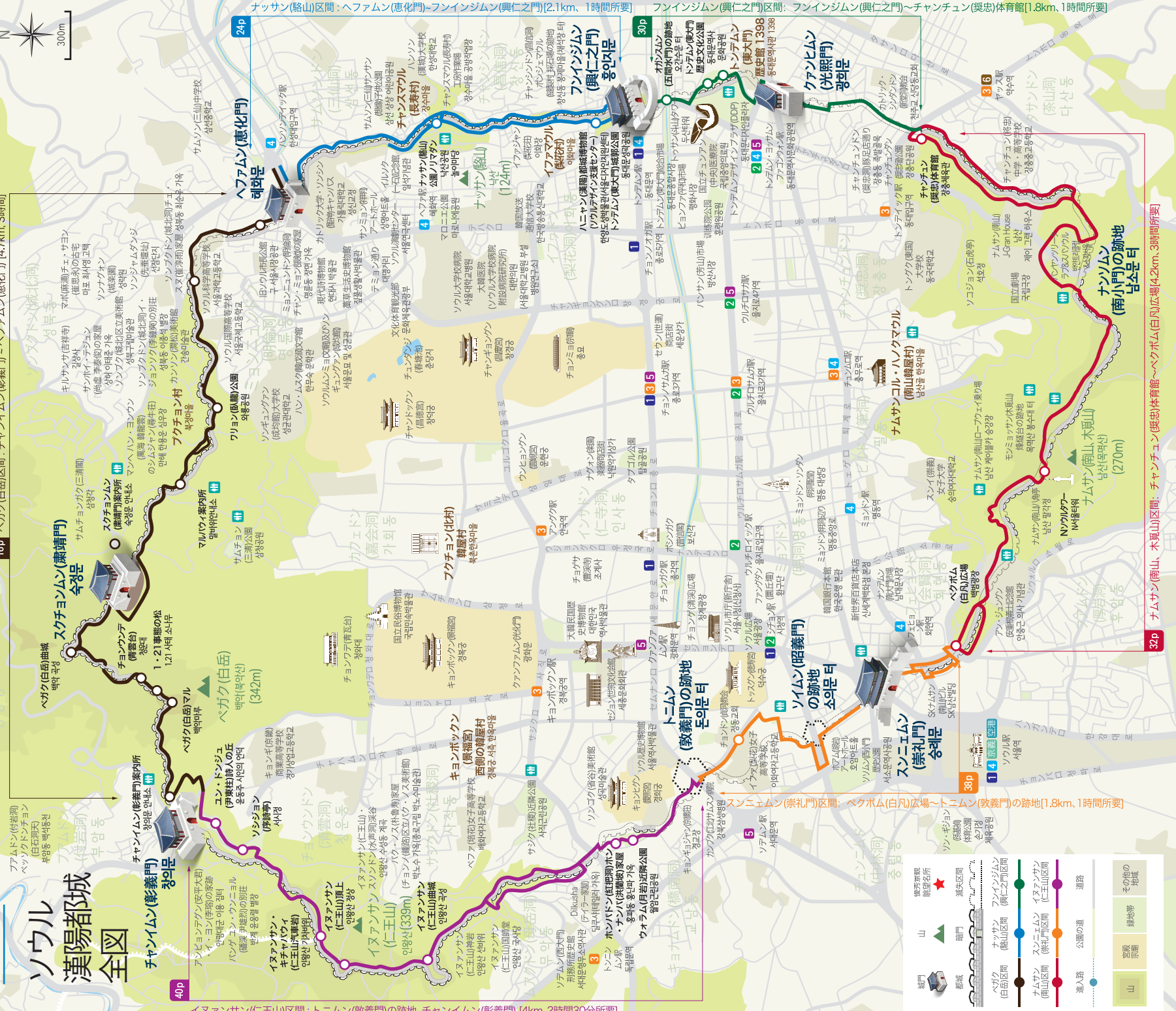
ナッサンから眺める夜景
味わい深く情緒ある都市の夜景を作りだす
漢陽都城

→ 28p



ナッサン区間は城壁に沿って照明が整備されているため、夜の散策が気軽に楽しめる。この区間の道を辿ってナッサンの山頂まで登ると視野が一面広がり、ソウルの夜景がパノラマのように繰り広げられる。写真はナッサンの頂上から見た都城周辺の夜景である。

ソウル
漢陽都城
全図



ソウル漢陽都城の四大門



「トングムン(東大門)」



トニムン(敦義門)
[ソデムン(西大門)]



ハンニエムン(崇礼門)
[ナムデムン(南大門)]



チョンムン(東靖門)
ブクテムン(北大門)



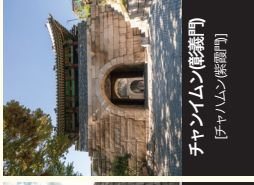
ハファムン(恵化門)



ソイムン(昭義門)
[ソドンムン(昭徳門)]



シグムン(屍口門)



チャンイムン(章義門)
[チャハムン(紫霞門)]

(トニムンの古写真) 国立中央博物館所蔵

ソウル漢陽都城の四小門

ソウル漢陽都城の四大門





モバイルアプリ
へアクセス

フアムドン(付岩洞)
ベックドンチョン(白石洞天)
부암동 백석동천

フガク(北岳)スカイウェイ
북악스카이웨이

チャンイムン(彰義門)〜ペガク(白岳)曲城[1.7km, 約1時間20分所要]



ペガク(白岳)区間 1

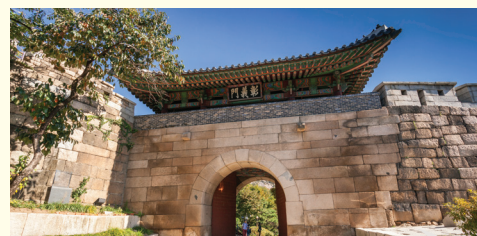
区間 チャンイムン(彰義門) → ペガク(白岳)曲城

距離 1.7km **所要時間** 約1時間20分所要

❗ **注意事項**：一部の地域では写真撮影が制限されることがあり、身分証明書を必ず持参すること。
(身分証明書提示区間：チャンイムン・スクチョンムン・マルバウィ案内所)

🚌 **交通案内**：[彰義門] **③** キョンボックン駅3番出口 → 支線バス7212番・1020番・7022番 → 「チャハムンゴゲ(紫霞門峠)」下車 → 徒歩2分

【チャンイムン(彰義門)】チャンイムンはイヌアンサン(仁王山)とペガク(白岳)の交差点にある門で、四小門の中では唯一、朝鮮時代の門楼がそのまま保持されている。この門楼は壬辰倭乱(文禄の役)の時に焼失されたがヨンジョ(英祖)17年(1741)に再建された。ヨンジョの時に門楼を新たに建てた際、インジョ(仁祖)反正時に反正の群れがこの門から都城に入ったことを記念するために、功臣らの名前を刻んだ扁額が掛けられたが、現在も当時のまま残されている。現在はチャハムン(紫霞門)と呼ばれることが多く、同門付近の景色がケギョン(開京)の景勝地であったチャハドン(紫霞洞)と類似していることから名づけられた。



チャンイムンのもう一つの物語

虹霓天井の絵 チャンイムンの虹霓(虹)のように半月の形をしている門の前部には鳳凰が彫刻されており、天井には鳳凰が描かれている。よく見ると、鳳凰という鳥の形状に近いが、チャンイムン外の地形がMカマに似ていることから、その天敵である鶏を描いたと言い伝えられている。チャンイムンとヘファムン(恵化門)の虹霓天井には鳳凰が、スンニェムン(崇礼門)とクワンヒムン(光照門)には龍が描かれているが、スクチョンムン(東靖門)には絵がない。

【ペガク(白岳)マル】都城で最も高く、「ペガクサン、海拔342m」と書かれた標石が立っている。ペガクマルからはキョンボックン(景福宮)とセジョンロはもちろん、ハンガン(漢江)向かいの63ビルまで眺望できる。最初の築城当時は工事区間を97に分け、千字文の順に各区間の名前が付けられ、スタート区間は「天」、最終区間は「弔」となっていたが、ペガクマルは「天」の区間に該当する。



【1・21事態の松】ペガクマルからチョンウンデ(青雲台)まで下り坂には「1・21事態の松」と呼ばれる木が立っている。樹齢約200年の古木には15発の銃弾の跡が残っている。この銃弾の跡は1968年1月21日、チョンワデ(青瓦台)の襲撃を狙って侵入した北朝鮮の特殊部隊員たちと韓国軍警が交戦した跡である。この当たりから城外を眺めると、ブッカサン(北漢山)とペガクマルの間にある位置するピョンチャンドン(平倉洞)が一目で入る。ピョンチャンドンという地名は宣恵庁の倉庫である平倉があったことに由来する。

【ペガク(白岳)曲城】曲城とは主要な地点や施設を効率よく守るために一部を丸く突出させた城壁のことで、イヌアンサンとペガクサンに1カ所ずつある。このうち、ペガク曲城は一般人に開放されており、都城を囲むソウルの山勢が最もよく見える場所と言われる。

・曲城から眺めるソンプク(城北区)



【ソクバジョン(石坡亭)とソウル美術館】<有形文化財第26号>ソクバジョンは、チャンイムンの外、岩山中腹にあるソウル美術館の敷地内に佇んでいる。19世紀半ばに当時の権力者であったキム・フングン(金興根)が建てた家で、コジョン(高宗)即位後はフンソンデウォングン(興宣大院君)イ・ハウン(李昰應)の別荘として使われた。ソクバ(石坡)とはイ・ハウンの雅号である。元々七棟が建てられていたが、現在残っているのは母屋、サランチェ(主人の居間)、離れのみである。2012年8月に開館したソウル美術館は「黄牛」・「自画像(1955)」・「歓喜(1955)」などのイ・ジュンソプ(李仲燮)の作品19点をはじめ、バク・スグン(朴寿根)、チョン・ギョンジヤ(千鏡子)、キム・ギチャン(金基範)、オ・チギョン(吳治均)など、韓国近現代の巨匠画家の作品100点余りを所蔵している。

都城、
これだけ
は知って
おこう

【暗門の外、巡城道】朝鮮時代の都城の内外には、兵士たちが巡回する巡城道があった。朝鮮後期には御営庁・禁衛營・訓練都監の三軍門がそれぞれ8つの区域に分け都城の周辺を巡回した。



巡城道
案内

【都城沿いのウォーキング】チャンイムン(彰義門) → チャンイムン(彰義門)案内所 → イルカ憩いの場 → ペガク(白岳)憩いの場 → ペガク(白岳)マル → 1・21事態の松 → チョンウンデ(青雲台) → アンムン(暗門) → ペガク(白岳)曲城 (徒歩1時間20分)
【ウォーキングおすすめ区間】チェ・ギウシク(崔圭植)銅像 → コン・ドンジュ(尹東柱)文学館 → ユグム(柳琴)瓦堂博物館 → ソクバジョン(石坡亭)(ソウル美術館) → ファンギ(煥基)美術館 → チャンイムン(彰義門) (徒歩1時間)

モバイルアプリ
へアクセス

① 注意事項：一部の地域では写真撮影が制限されることがあり、身分証明書を必ず持参すること。(チャンイムン・スクチョンムン・マルバウィ案内所)

② 交通案内：[スクチョンムン案内所] 4 ハンソンディブク駅6番出口 ➡ 支線バス1111・2112番
➡ 「ミョンス学校」下車 ➡ 徒歩20分

[マルバウィ案内所] 1) 3 アングク駅2番出口 ➡ マウルバス鍾路02番 ➡ 「ソンギョングアン(成均館)大学校・後門」下車 ➡ 徒歩20分
2) 6 カンファムン駅2番出口 ➡ マウルバス鍾路11番 ➡ 「サムチョン(三清)公園」下車 ➡ 徒歩20分

【スクチョンムン(肅靖門)】 スクチョンムンはハニヤン(漢陽)都城の北大門である。最初は肅清門と名付けられていたが、後に肅靖門に改名された。現存する都城門のうち、左右両側に壁が繋がっているのは唯一スクチョンムンしかない。1976年に新たに門楼が建てられた。



【マルバウィ案内所と優秀景観眺望名所】 マルバウィとはサムチョン(三清)公園の中にある岩のことで、この名前の由来については諸説がある。ペガクの端にある岩という意味で末(マル)の岩(バウィ)と名付けられたという説や、馬に乗ってきた人々が山に登る前にこの岩に馬をつなぎ止めたことから馬(マル)バウィと名付けられたという説などがあるが、後者の方が有力視される。東尾根に沿ってペガクに登る途中で急傾斜になる地点を指す。ここからはソンプクグ(城北区)方面の眺め、チョンノグ(鍾路区)方面の眺めがよく、優秀景観眺望名所となっている。優秀景観眺望名所は、スクチョンムン(肅靖門)案内所、マルバウィ案内所、サムチョン(三清)公園、ワリョン(臥龍)公園への道が分かれる分岐点なので、案内標識をよく確認する必要がある。



【ブクチョン(北村)韓屋村】 ブクチョンとはキョンボクン(景福宮)とチャンドクグン(昌徳宮)の間に位置する村の昔の名称で、現在のCHEDON(齋洞)、カフェドン(嘉会洞)、ケドン(桂洞)、サムチョンドン(三清洞)一帯を指す。古くから宗親や高官が多数住んでいたため屋敷が多かった。現在残っている朝鮮末期の建築物にはアングクドン(安国洞)にあるユン・ボソン(尹潯善)の家が唯一で、ハン・サンニョン(韓龍淵)の家、キム・ソンス(金性洙)の家など1910～20年代に建てられた建物も幾棟が残っているものの、ほとんどの韓屋はすべて1930年以降に建てられた都市型の韓屋である。



✓ スクチョンムンのもう一つの物語

スクチョンムンが閉められていた理由は？ 東洋では、北は陰陽の「陰」、南は「陽」に当たるとされてきた。ソウルの地勢は北が高く南が低い。それに陽気より陰気が強いという説に基づき、スクチョンムンは普段開けたままにし、酷い干ばつの時だけ開けたとされる。これに関しては、「スクチョンムンを開けておくと、チャンアン(長安、ソウル)の女性が道楽に陥りかねない」という俗説があったため、「常時扉を開けて置くようにした」とも言われる。イ・ギョギョン(李圭景)が書いた『五洲衍文長箋散稿』によると、「ヤンジュ(楊州)ブッカンサン(北漢山)に通じるスクチョンムンも閉めたままになって使われていない。それかいつから使われていないかははっきりわからないが、伝えるところでは、この城門を開けておくと、城の中に「桑中河間之風」が吹き荒れるとされ、それを防ぐため」と記されている。「桑中河間之風」とは、「周代宣惠王の時代の淫らな貴族たちが桑畑で密会した」と書かれた「時埭」の一節に由来する文句で、婦女子の風紀紊乱行為を意味する。ソンプクドン(城北洞)にソンジヤムダン(先蚕壇)があったことから、スクチョンムンの外には実際の桑の畑があったと推測される。

【都城沿いのウォーキング】 ペガク(白岳)曲城 ➡ ペガク(白岳)チョッテバウィ ➡ スクチョンムン(肅靖門) ➡ マルバウィ案内所 ➡ 優秀景観眺望名所 ➡ ワリョン(臥龍)公園 (徒歩1時間)

【ウォーキングおすすめ区間1】 3 アングク駅2番出口 ➡ ブクチョン(北村)文化センター ➡ ハン・サンス(韓尚洙)刺繍博物館 ➡ ブクチョン生活史博物館 ➡ ソウル市立チョンドク(正誼)図書館 ➡ アングクドン(安国洞)ユン・ボソン(尹潯善)の家 ➡ 国立現代美術館・ソウル館 ➡ サムチョン(三清)公園 (徒歩1時間30分)

【ウォーキングおすすめ区間2】 4 ハンソンディブク駅6番出口 ➡ ミョンス学校 ➡ ソンプク(城北区)友情の公園 ➡ サムチョンガク(三清閣) ➡ スクチョンムン(肅靖門)案内所 ➡ スクチョンムン (徒歩40分)



ナッサン区間

区間 ヘファムン(恵化門) → ファンインジムン(興仁之門)

距離 2.1km

所要時間 約1時間

ファンインジムン区間

区間 ファンインジムン(興仁之門) → チャンチュン(愼忠体育館)

距離 1.8km

所要時間 約1時間

ヘファムン(恵化門)からナッサン(駱山)を過ぎてファンインジムンに至る区間である。ナッサン(124m)はソウルの左青龍に当たる山で、内四山の中で最も低い。山の形が駱駝に似ていることからナクタサン(駱駝山)またはタラクサン(駝駱山)と呼ばれる。ナッサン区間は傾斜が緩やかなのでゆっくり散策するように歩いてもよいコースである。カトリック大学の裏道は築造時期別の城石形状の変化が観察できる。

- ☑ 開放時間：24時間
- ⚠ 注意事項：チャンスマウル(長寿村)とイファマウル(梨花村)を通る時は住民の迷惑にならないように気を付けること。





ナッサン(駱山)区間 1

区間 ヘファムン(恵化門) → ナッサン(駱山)公園ノリマダン
距離 1.0km **所要時間** 約30分

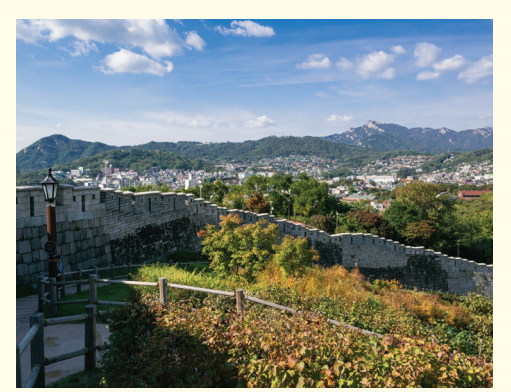
- ❶ 注意事項：城壁の上に登ったり寄りかかったりすることは大変危険であり、城壁を壊す恐れがあるのでご注意ください。
❷ 交通案内：[ナッサン入口] 4 ハンソンデイク駅4番出口 → 徒歩3分 / 4 ヘファ駅1番出口 → 徒歩5分
[ナッサン公園の頂上] 4 ヘファ駅2番出口 → 徒歩15分

【チャジドンチョン(紫芝洞泉)とピウダン(庇雨堂)】 チャジドンチョンはタンジョン(端宗)妃チョンスン(定順)王后であるソン(宋)氏にまつわる遺跡である。チャジドンチョンとは白い布を洗うと自然に紫色に染まったことから名付けられた。岩には「紫芝洞泉」と刻まれており、その横に井戸の跡が残っている。タンジョンの廃位後、庶民になったソン氏は、トンデムン(東大門)の外に小屋を建てて暮らしながら、チャジドンチョンで染色することを生業にしながら生計を立てたと伝えられる。チョンスン王后がタンジョンの冥福を祈りながら暮らしていた家をチョンオボン(淸葉院)と言うが、現在チョンニョンサ(靑龍寺)の裏庭には、ヨンジョ(英祖)が建てたチョンオボン旧基碑が残っている。タンジョン妃であるソン氏にまつわる遺跡はその他にもトンマンボン(東望峯)やヨイン(女人)市場などがある。



✓ **チャンスマウルのもう一つの物語**
村再生事業 住民が町の特徴と歴史的価値を活かしながら、古い住宅や周辺環境を改善する事業で、町全体の建物を撤去してマンションに建て替える従来の再開発方法とは異なる。フクチョン村、チャンスマウル、イファマウル(梨花村)などは村再生プロジェクトによって生まれ変わりつつある。

【ナッサン(駱山)公園】 チャンスマウル(長寿村)からアンムン(暗門)を通じて都城の中に入るとナッサン公園ノリマダンが現れる。ナッサン公園はソウルのモンマルトルの丘と呼ばれるほど眺めが良い場所である。ここから眺める夕日と夜景はとりわけ美しい。ペガク(白岳)とイヌアサン(仁王山)からはソウルの遠景が眺められるのに対し、ここからは都心が手に取るように見える。



都城、これだけはおこう
【ソウル(漢陽)都城の壮大さが感じられるスポット】 都城に沿って歩く道はほとんどが城壁の内側に作られているため、肩の高さ程度の女墙しか見えないことが多いが、ナッサン区間は全区間が城外に道が整備されている(もちろん、アンムン(暗門)を通じて城の中に入ることもできる)。特にカトリック大学校沿いの城壁道を歩いていると、ハニャン都城の壮大さと頑丈さが一目瞭然とわかる。また、セジョン(世宗)・スクチョン(肅宗)・スンジョ(純祖)の時代の築城方法を比較することもできる。



【都城沿いのウォーキング】 ヘファムン(恵化門) → 4 ハンソンデイク駅4番出口 → 階段 → カトリック大学校の裏道 → チャンスマウル(長寿村) → アンムン(暗門) → ナッサン(駱山)公園ノリマダン(徒歩30分)
【ウォーキングおすすめ区間】 4 ヘファ駅1番出口 → サンミョン(祥明)アートホール → テハンノミュージカルセンター → イルソク(一石)記念館 → ナッサン第3展望広場 → ナッサン第2展望広場 → ナッサン第1展望広場 → ナッサン公園ノリマダン(徒歩30分)



フニンジム(興仁之門)区間

区間 フニンジム(興仁之門) → チャンチュン(興忠)体育館
距離 1.8km
所要時間 約1時間

- ① 注意事項：クアンヒムン(光熙洞)からチャンチュン体育館方面への道は民家地域に当たり、民家の迷惑にならないようにすること。
- ② 交通案内：[フニンジム] ① ④ トンデムン駅6・7番出口 → 徒歩1分
[トンデムン(東大門)歴史文化公園] ① ④ トンデムン駅7番出口 → 徒歩10分
② ④ ⑤ トンデムン・ヨッサムファゴンウォン駅2番出口 → 徒歩2分
[チャンチュン(興忠)体育館] ③ トンデック駅5番出口 → 徒歩2分

【フニンジム(興仁之門)】 <宝物第1号> ハニヤン(漢陽)都城の東大門である。現在のフニンジムはコジョン(高宗)6年(1869)に再建されたもので、朝鮮後期の建築様式がよく表れており、宝物第1号に指定されている。ソウルは西高東低の地勢であるため、軍事的にはトンデムン(東大門)が最も不利だった。トンデムンの外側に瓮城をもう一つ築いたのもそのためである。1907年、左右の城壁が取り壊され、現在の姿になった。



【オガンスムン(五間水門)の跡地とイガンスムン(二間水門)】
<史跡第461号(オガンスムンの跡地)> フニンジムとクアンヒムンの間にはかつてオガンスムンとイガンスムンがあった。この付近はソウルで最も地形が低いため、内四山から流れ落ちる水はすべてここを通過して都城の外へ流れていった。城壁とチョングジョンが交差する場所には水門が続いていた。トンデムン運動場の観客席の下に埋れていたイガンスムンは円形に近い姿が残っているが、オガンスムンは跡形もなくなっており、かつてオガンスムンがあった場所が史跡に指定されているだけである。

【トンデムン歴史文化公園(旧トンデムン運動場の跡地)】
昔のトンデムン運動場の跡地に造成された公園で、朝鮮後期には訓練都監の別荘である下都監と火薬製造官署である焰硝庁があった場所である。1925年、日本はここにキョンソン(京城)運動場を建設したが、城壁を利用して観客席を作った。解放後、キョンソン運動場はソウル運動場に改称され、その後の'88オリンピック(第24回ソウルオリンピック)以後、トンデムン運動場に改名された。2007年、近現代の韓国スポーツの中心地であった同運動場が取り壊されたが、当時の解体作業の過程で、地下に埋もれていた城壁の一部とイガンスムン(二間水門、ナムサン(南山)から流れる水が都城の外に抜けられるように作った二間の水門)、雉城(城壁の一部を突出させて、敵から守るための施設)、下都監と推定される建物の遺構などが大量に出土した。現在のイガンスムンは元の場所にあるが、トンデムンデザインプラザ(DDP)の場所にあった建物の遺構は公園の中に移された。その場所出土した遺物はトンデムン歴史文化公園内のトンデムン歴史館1398で見ることができる。

【クアンヒムン(光熙洞)】 ハニヤン都城の東南門で、シグムン(屍口門)またはスグムン(水口門)と呼ばれていた。日本統治時代に一部が崩れ、1960年代のトェグロ工事の際に半分ほど取り壊されたが、1975年に元の位置から南に15m離れた現位置に再建された。

クアンヒムンのもう一つの物語

クアンヒムン外の村、シンダグドン(新堂洞)の由来 クアンヒムンは遺体が運ばれていた屍口門である。一般百姓にも出入りを嫌がられた門であったが、王の身分で同門を利用した王がいる。インジョ(仁祖)は丙子胡乱当時、清軍が予想より早く都城に迫ってきたため、クアンヒムンを通り抜けてナム(南)山(南漢山)に避難したのである。同門の外は路祭を執り行う場所だったため巫女が多く、シンダグ(神堂里)と呼ばれていたが、甲午改革以後、シンダグ(新堂里)と改称された。

都城、
これだけ
は知って
おこう

【チャンチュンドン(興忠洞)住宅地域】 クアンヒムン城壁に沿ってチャンチュンドン住宅街に入ると、ハニヤン都城は再び姿を消す。1930年代に東洋拓殖株式会社がこの一帯に文化住宅団地を造成した際に、ハニヤン都城のかなりの部分を取り壊した上、解放後、1960～70年代も新築が建てられる際に城壁が破壊されたためである。現在、この当たりの城石は住宅の塀や土台として使われている



巡城道
案内

【都城沿いのウォーキング】 フニンジム(興仁之門) → オガンスムン(五間水門)の跡地 → イガンスムン(二間水門) → トンデムン(東大門)歴史文化公園(旧トンデムン運動場の跡地) → トンデムン歴史館1398 → クアンヒムン(光熙洞) → ベッククリーニング店 → カトリック・シンダグドン(新堂洞)教会 → チャンチュン(興忠)体育館 (徒歩1時間)



ナムサン(南山、木覓山)区間

区間 チャンチュン(興忠)体育館→ベクボム(白凡)広場

距離 4.2km 所要時間 約3時間

スンニェムン(崇礼門)区間

区間 ベクボム(白凡)広場→トニムン(敦義門)の跡地

距離 1.8km 所要時間 約1時間

チャンチュン体育館の裏道からナムサン公園に至るまでの区間である。ナムサン(南山・木覓山、海拔270m)はソウルの案山とされ、朝鮮初期から国泰民安を祈る国師堂が設置されていた。また、頂上は辺境の変乱を知らせるボンス(烽燧)台を設置し、宮廷から直接探知できるようにした。ハングン(漢江)の南北を見下ろす現在のナムサンは、ソウルの行政区域上の中央部であり、頂上付近にはソウルの地理的中心地であることを表示する「ソウル中心点の標識石」が立てられている。1921年から1925年まで、日本帝国がナムサンの中腹に朝鮮神宮を建てた際に周辺の城壁をほとんど取り壊したが、1970年代以降の城郭の保存・整備事業と、1990年代半ばから始まった「ナムサンの昔の姿を取り戻す」事業を通じて、現在ではかなりの部分昔の姿が取り戻されている。

● 開放時間：ナムサンー 24時間開放

スンニェムンー 年中常設(月曜日休み)観覧時間： 09:00~18:00

夏季(6月~8月) 09:00~18:30、冬季(11月~2月) 09:00~17:30





スンニェムン(崇礼門)区間

区間

ベクボム(白凡)広場 ➡ トニムン(敦義門)の跡地

距離

1.8km

所要時間

約1時間

🕒 開放時間

スンニェムン観覧時間 - 年中常設(月曜日休み)時間 : 09:00~18:00
夏季 : 09:00~18:30(6月~8月) / 冬季 : 09:00~17:30(11月~2月)

🚶 交通案内

[チョンドンギル] **1 2** シチョン駅10番出口 ➡ 徒歩5分 / [トッスグン(徳寿宮)] **1 2** シチョン駅2番出口 ➡ 徒歩1分
[スンニェムン] **京義 空港 1 4** ソウル駅4番出口 ➡ 徒歩5分 / [ナムデムン(南大門)市場] **4 フェヒョン駅5番出口** ➡ 徒歩1分
※点線になっているイファ(梨花)女子高等学校内の巡城道は解説者プログラムの場合のみ進入可能である。

【スンニェムン(崇礼門)】

<国宝第1号>ハニヤン(漢陽)都城の南大門であり、正門である。1395年に建て始め、1398年に完成したが、1448年と1479年に2回改築された。1907年、交通の妨げになるという理由により、左右の城壁を取り壊されてからは文化財として温存されてきた。ソウルで最も古い建物であったが、2008年2月の火災で木造2階の門楼が毀損され、2013年5月に修復された。修復時にスンニェムン左右の83m区間に城壁が繋がれた。

【ソイムン(昭義門)の跡地】

四小門の一つで都城の西南門である。1396年都城と一緒に築造されたが、最初の名称はソドンムン(昭徳門)であった。ヨンジョ(英祖)20年(1744)に門楼を改築した際にソイムンに改称された。クワンヒムン(光熙門)と同様、城の外に遺体を運ぶ門として使われていた。1914年、日本帝国の市区改修事業の際に取り壊され、現在はソイムンの跡地であることを示す標石が残っているだけである。

【イファ(梨花)女子高等学校・シンブソン記念館】

<登録文化財第3号> 1915年に竣工した旧イファ学堂の校舎で、現在イファ博物館として使われている。イファ学堂は1886年、アメリカメソジスト派女宣教師であるメアリー・F・スクラントンが創設した韓国初の女性教育機関で、イファ学堂という名前は1887年にミョンソン(明成)皇后により命名された。学校の敷地内にはユ・グァンソン(柳寬順)烈士が洗濯の際に使っていた井戸や、「韓国女性の新教育発祥の地」記念碑、ユ・グァンソンの銅像、ソンタク(孫沢)ホテル跡地を示す標石などがある。

【旧ロシア公使館】

<史跡第253号> コジョン(高宗)27年(1890)に完成したルネサンス様式の建物で、丘の上に佇むチョンドンの象徴的な建築物であった。乙未事変以後、身辺に危険を察したコジョンが1896年2月に同建物に避難して1年間を過ごした(俄館播遷)。韓国戦争中、建物のほとんどが破壊され上部だけが残っていたが1973年に現在の姿に整備され、その後も2007年と2010年の二度にわたり補修工事が行われた。旧ロシア公使館の跡地は現在チョンドン(貞洞)公園に造成されている。

【チョンドン(貞洞)教会】

<史跡第256号> アメリカ人宣教師アッペンヴェーラーが設立した韓国初のメソジスト派教会である。ゴシック風の赤レンガの建物で、1895年に着工、1897年に完成した。近くのベジェ(培材)学堂・イファ(梨花)学堂と共に開花期にアメリカの文物を取り入れた通路として役割を果たした教会である。

都城、これだけ知っておこう

【城壁の跡】 スンニェムン区間ではハニヤン都城の痕跡が発見できるスポットが2箇所ある。大韓商工会議所からオリブタワーまで続く場所に城壁の一部が垣根のように残り、もう1箇所はチャンドク(昌徳)女子中学校の塀の下の部分に50mほどの四角い城壁一部を見ることができる。

都城沿いのウォーキング

ベクボム(白凡)広場 ➡ ナムデムン(南大門)市場 ➡ スンニェムン ➡ ナムジ(南池)の跡地 ➡ 大韓商工会議所 ➡ ソイムン(昭義門)の跡地 ➡ ベジェ(培材)学堂東館・ベジェ公園 ➡ チョンドン(貞洞)教会 ➡ イファ(梨花)女子高等学校 ➡ トニムン(敦義門)の跡地 (徒歩1時間)

ウォーキングおすすめ区間

1 2 シチョン駅5番出口 ➡ ソウル広場 ➡ チョング(清溪)広場 ➡ クワンファムン(光化門)広場 ➡ トッスグン(徳寿宮) ➡ ソウル市立美術館 ➡ ベジェ(培材)学堂東館・ベジェ公園 ➡ チョンドン(貞洞)劇場 ➡ イファ女子高等学校シンブソン記念館 ➡ 旧ロシア公使館 ➡ トニムン(敦義門)の跡地 (徒歩40分)

巡城道案内

38 39



イヌアンサン(仁王山)区間

区間 トニムン(敦義門)の跡地 ➡ チャンイムン(彰義門)

距離 4km **所要時間** 約2時間30分

トニムンの跡地から始まりイヌアンサンを越えてユン・ドンジュ(尹東柱)詩人の丘まで続く区間である。海拔339mのイヌアンサンは風水学上右白虎に当たる。巨大な岩が露出している岩山で、チマパウィ(岩)、ソンパウィ(禪岩)、キチャパウィ(汽車岩)など奇奇怪石が多い。仁王という名は仏教式名称で、ムハク(無学)大師がこの山を主山に祀ると仏教が隆盛すると言いつ残したことから名付けられた。1968年、1・21事件以後民間人の出入りが統制されていたが1993年から民間人に開放された。

🕒 **開放時間**：24時間(毎週月曜日休み、月曜日が祝日の場合は火曜日休み)

● 注意事項：イヌアンサンは岩石が多いため、冬季の登山時は注意しなければならない。





イヌアンサン(仁王山)区間 1

区間 トニムン(敦義門)の跡地➡イヌアンサン(仁王山)曲城

距離 2km **所要時間** 約1時間

- ① 区間情報: サジクダン(社稷壇)では毎年9月第3日曜日にチョンジュ(全州)イ(李)氏テドンジョンヤグォン(大同宗約院)の主管で社稷大祭(重要無形文化財第111号)が開かれる。
- ② 交通案内: [トニムの跡地] **5 ソデムン駅4番出口** ➡ 徒歩2分 / **マウルバス鍾路05番** ➡ 「カンブク(江北)サムスン病院」下車 ➡ 徒歩1分
[キョンヒグン(慶熙宮)] **5 クァンファムン駅1番出口** ➡ 徒歩5分/[サジクダン(社稷壇)] **3 キョンボックン駅1番出口** ➡ 徒歩5分
[イマァンサン国師宮] **3 トンニムン駅2番出口** ➡ 徒歩20分

【トムン(敦義門)の跡地】 都城の西大門であるトムンがあった場所である。トムンはテジョ(太祖)の時代に初めて建てられたが、テジョン(太宗)13年(1413)に建てられたソジョンムン(西箭門)が西大門の機能を果たしていた。しかし、その場所がどこだったかは定かではない。セジョン(世宗)4年(1422)に都城を大々的に修築した際にソジョンムンを閉め現在のトムンの跡地に新しいトムンを立てた。それ以後、トムンはセムンまたはシンムン(新門)も呼ばれ、現在のシンムン口という地名はこれに由来する。日本帝国は1915年に西大門を通る電車を開通したが、その際にトムンを解体し建材として売却した。現在トムンの跡地には公共美術品「見えない門」が設置されている。



【キョンギョジャン(京橋荘)】 <史跡第465号> 1945年の大韓民国臨時政府の遷国から1946年まで事実上の臨時政府庁舎として使われた建物で、國務委員會の開催及び信託院の臨時政府運動の主要舞台となった。また、主席キム・グ(金九)が約4年間(1945～1949)過ごし逝去した歴史の現場である。近古後、60年中国大使館、ベトナム大使館、病院施設などに使われてきたが、2013年3月、キム・グ先生が居住した当時の臨時政府庁舎として復元され市民に開放された。

【Dilkusha(テイラー家屋)】Dilkushaはアメリカ人の金鉱技術者であり、UPIソウル特派員を務めながら3・1運動を世界に知らせたアルバート・テイラーが建てて1923年から1942年まで過ごした洋風建築物である。Dilkushaとはヒンディー語で「希望の宮殿」という意味で、長い間ペールに包まれていた建物の由来は、2006年にアルバートの息子であるブルース・テイラーの訪韓によって世に知られた。Dilkushaのすぐ隣には樹齢450年以上のイチチョウの木があるが、ヘンジュ(幸州)大捷を率いたクワン・ユル(惲傑)將軍の家にあった木だと伝わっており、ヘンチョンドン(杏村洞)という地名はこの木に由来する。

都城、
これだ
は知っ
おこう

【ソウル漢陽都城の跡】最近ウォラム(月岩)近隣公園に沿って新たに城壁が築かれた。公園造成の途中、ソウルの福祉財団(旧気象庁)建物の垣根土台の下に埋もれていた城壁の一部が見つかった。ホンパドンホン・ナンバ家屋の周辺にある集合住宅の駐車場裏にも城壁の跡が残っている。

【都城沿いのウォーキング】 トニムンの跡地 → キョンギョジャン → ウォラム近隣公園 → ホンパドンホン・ナンバ家屋 → コンピニ(旧オッキョンスーパー食品) → 暗門 → イヌアンサン曲城 (徒歩1時間)

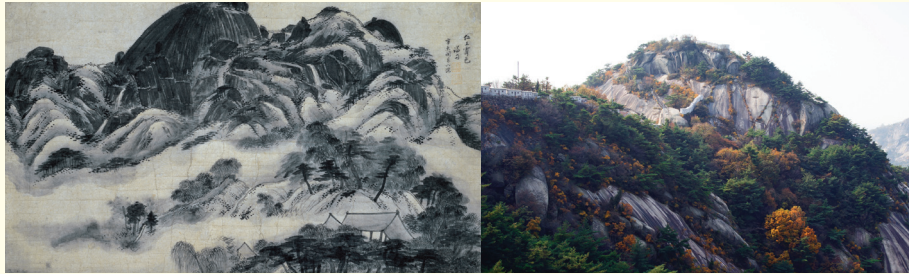
【ウォーキングおすすめ区間1】 **5 ソデムン駅4番出口**→トニムン(敦義門)の跡地→ソウル歴史博物館→キョンヒグン(慶熙宮)
→サジク(社稷)近隣公園→ベッサ・イ・ハンボク(白沙李恒福)の家の跡地_ビルンデ(砥雲台)
→ファンハクチョン(黃鶴亭)→イヌアンサン(仁王山)国師堂(徒歩1時間)

【ウォーキングおすすめ区間2】 3 キョンボクン駅2番出口➡キョンボクン(景福宮西側の韓屋村➡バク・ノス(朴魯寿)家屋(チョンノ(鍾路)区立バク・ノス美術館)➡イヌアンサン・スソンドン(水声洞)溪谷➡イヌアンサン公園➡イヌアンサン・ボンパウィ(虎岩) (徒歩1時間)

巡城案内

昔の絵と写真の中の ソウル漢陽都城

古美術の中のソウル漢陽都城の姿



*仁王霽色図[1751年 | チョン・ソン(鄭勸)作 | サムスン美術館Leeum所蔵]

*現在、イヌアンサン(仁王山)の麓

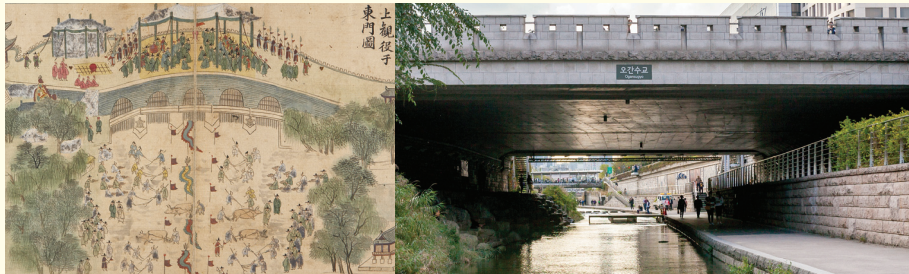
真景山水画の大家であったキョムジェ・チョン・ソン(謙齋鄭勸)の家は、イヌアンサン(仁王山)の麓、現在のキョンプク(景福)高等学校がある場所にあったため、イヌアンサン周辺の風景を描いた絵が多い。仁王霽色図(1751)にもイヌアンサンの尾根に沿って連なるハニャン都城の姿が描かれている。



*チャンイムン(彰義門)、<壮洞八景帖>[年度不詳 | チョン・ソン作 | 国立中央博物館所蔵]

*現在のチャンイムンの姿

キョムジェ・チョン・ソンの<壮洞八景帖>の一つである「チャンイムン(彰義門)」。この絵は都城の内側から眺めた景色である。チャンイムンを中心に左がイヌアンサン、右がベガク(白岳)である。チャンイムンの両側は山の尾根に沿って城壁が続いている。



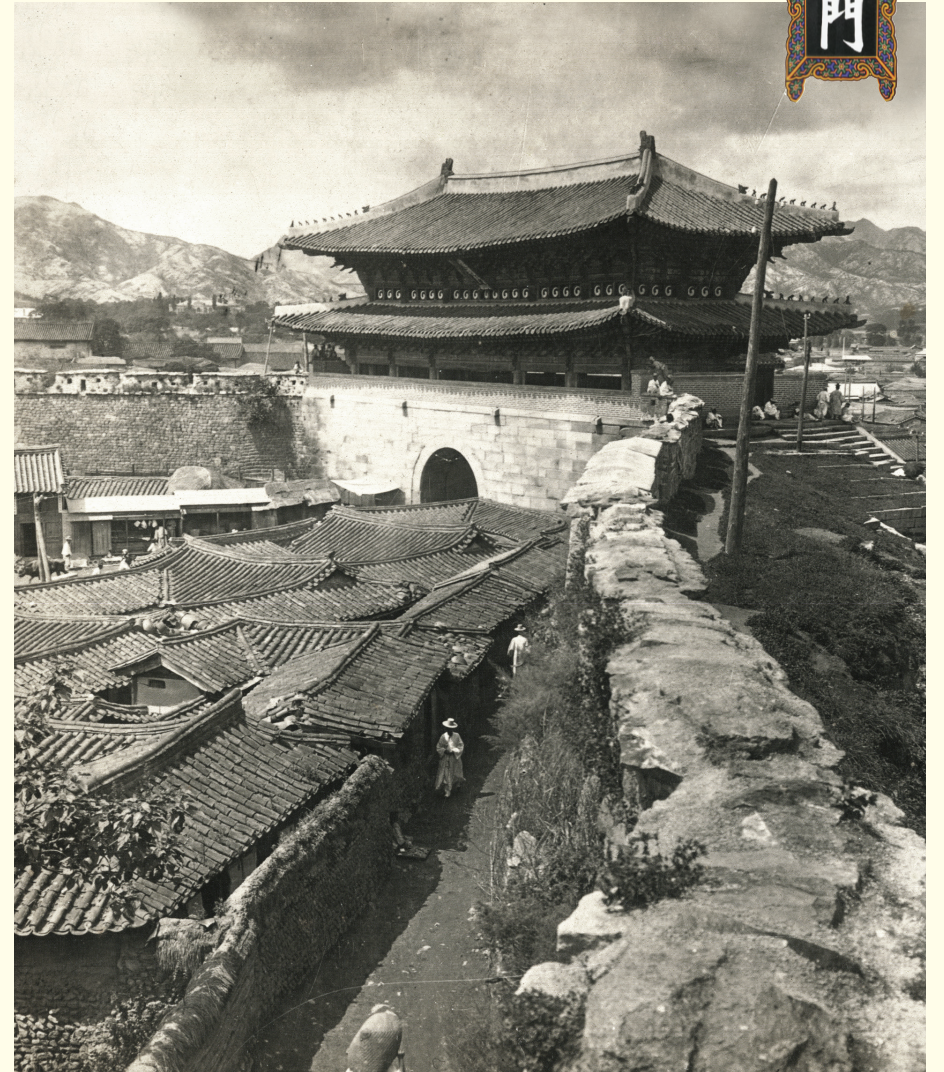
*チョングジョン(清溪川)浚渫図[1760年 | 作者不詳 | サムスン美術館Leeum所蔵]

*現在のチョングジョンオガンスギョ(五間水橋)の姿

ヨンジョ(英祖)の時代のチョングジョン(清溪川)浚渫報告書「濬川契帖」には、浚渫工事の完成を祝う場面を描いた「濬川試射閼武図」が収録されている。この絵にはオガンスムン(五間水門)上の城壁部分が鮮明に描かれている。

古写真の中のソウル漢陽都城の姿

*スンニェムン(崇礼門)復旧の扁額
(2013年5月)



*1904年初頭のスンニェムン周辺の写真[ジョージ・ロス氏撮影 | ステレオスコープ チョ・サンスン所蔵]

1900年代初めまでスンニェムン(崇礼門)左右の城壁が温存されていたことがわかる写真。この城壁は1920年代にすべて取り壊された。

地下鉄で訪れる都城 周辺の観光名所

1号線

[ソウル駅 **京義 空港 1 4**] スンニェムン(崇礼門)
[シチョン駅 **1 2**] トッスグン(徳寿宮)/ソウル市立美術館/チョンドン(貞洞)劇場/ソウル広場/チョング(清溪)広場/
ソウル特別市議会/韓国銀行本館/ソイムン(昭義門)の跡地/ファングダン(圓丘壇)/チョンドン(貞洞)教会
[チョンガク駅 **1**] ボシנגク(普信閣)
[チョンノサムガ駅 **1 3 5**] タブゴル公園/チョングチョン(清溪川)/チョンミョ(宗廟)/インサドン(仁寺洞)
[チョンノオガ駅 **1**] クァンジャン(広蔵)市場/トンデムン(東大門)総合市場
[トンデムン駅 **1 4**] フンインジムン(興仁之門)/イガンスムン(二間水門)/トンデムン(東大門)城郭公園/ピョンファ(平和)市場

2号線

[チュンジョンノ駅 **2 5**] チョンドン(貞洞)劇場/ソン・ギジョン(孫基禔)体育公園
[シチョン駅 **1 2**] トッスグン(徳寿宮)/ソウル市立美術館/チョンドン(貞洞)劇場/ソウル広場/チョング(清溪)広場/
ソウル特別市議会/韓国銀行本館/ソイムン(昭義門)の跡地/ファングダン(圓丘壇)/チョンドン(貞洞)教会
[ウルチロイック駅 **2**] ミョンドン・ソングン(明洞聖堂)
[ウルチロサムガ駅 **2 3**] チョングチョン(清溪川)
[トンデムン・ヨッサムンファゴンウォン駅 **2 4 5**] クァンヒムン(光熙門)/トンデムン(東大門)歴史文化公園(旧トンデムン運
動場の跡地)/オガンスムン(五間水門)の跡地

3号線

[トンニンムン駅 **3**] ソデムン(西大門)刑務所歴史館/トンニブ(独立)公園/トンニンムン(独立門)/クォン・ユル(崔暎)都元帥家跡/
ホンパドン(紅把洞)ホン・ナンパ(洪蘭坡)家屋/ウォラム(月岩)近隣公園
[キョンボックン駅 **3**] クァンファムン(光化門)/キョンボックン(景福宮)/セジョン(世宗)文化会館/国立民俗博物館/
トンイン(通仁)市場
[アングク駅 **3**] チャンドクン(昌徳宮)/ブクチョン(北村)韓屋村/憲法裁判所/ソウル市立チョンドク(正統)図書館/
ウンヒョングン(雲峴宮)/ブクチョン(北村)伝統工芸体験館
[チョンノサムガ駅 **1 3 5**] タブゴル公園/チョングチョン(清溪川)/チョンミョ(宗廟)/インサドン(仁寺洞)
[ウルチロサムガ駅 **2 3**] チョングチョン(清溪川)
[チュンムロ駅 **3 4**] ナムサンコル・ハノクマウル(南山韓屋村)
[トンデイク駅 **3**] チャンチュン(愼忠)体育館/チャンチュンダン(愼忠壇)公園/チャンチュンドン(愼忠洞)豚足店通り

4号線



[ソウル駅 **京義 机场 1 4**] スンニェムン(崇礼門)
[フェヒョン駅 **4**] スンニェムン(崇礼門)/ベクボム(白凡)広場/アン・ジュングン(安重根)義士記念館/ソウル市立ナムサン(南山)
図書館/ナンデムン(南大門)市場
[ミョンドン駅 **4**] ミョンドン・ソングン(明洞聖堂)/ミョンドン(明洞)通り
[チュンムロ駅 **3 4**] ナムサンコル・ハノクマウル(南山韓屋村)
[トンデムン・ヨッサムンファゴンウォン駅 **2 4 5**] クァンヒムン(光熙門)/トンデムン(東大門)歴史文化公園(旧トンデムン運
動場の跡地)/オガンスムン(五間水門)の跡地
[トンデムン駅 **1 4**] フンインジムン(興仁之門)/イガンスムン(二間水門)/トンデムン(東大門)城郭公園/ピョンファ(平和)市場
[ヘファ駅 **4**] マロニエ公園/ナッサン(駱山)公園/イファマウル(梨花村)/イファジャン(梨花社)/葦草生活史博物館
[ハンソンデイク駅 **4**] ヘファムン(恵化門)/旧ソウル市長公館

5号線

[ソデムン駅 **5**] トニムン(敦義門)の跡地/キョングジョジャン(京橋社)/キョヒグン(慶熙宮)/チョンドン(貞洞)教会
/チョンドン(漢陽)劇場/チョングチョン(清溪川)/ソウル歴史博物館
[クァンファムン駅 **5**] セジョン(世宗)文化会館
[チョンノサムガ駅 **1 3 5**] タブゴル公園/チョングチョン(清溪川)/チョンミョ(宗廟)/インサドン(仁寺洞)
[トンデムン・ヨッサムンファゴンウォン駅 **2 4 5**] クァンヒムン(光熙門)/トンデムン(東大門)歴史文化公園(旧トンデムン運
動場の跡地)/オガンスムン(五間水門)の跡地

ソウル漢陽都城の 関連機関

[漢陽都城]

- ・漢陽都城ホームページ  seoulcitywall.seoul.go.kr
- ・ソウル歴史博物館・ハニヤン都城研究所  www.museum.seoul.kr
- ・漢陽都城博物館

[観光案内所]

- ・アンファムン(光化門)観光案内所 ☎ 09:00~22:00 ☎ 02)735-8688
- ・ナムデムン(南大門)市場観光案内所 ☎ 09:30~18:00 ☎ 02)752-1913
- ・トンデムン(東大門)観光案内所 ☎ 09:00~22:00 ☎ 02)2236-9135
- ・ミョンドン(明洞)観光案内所 ☎ 10:30~20:00 ☎ 02)774-3238


[関連機関]

- ・文化財庁  www.cha.go.kr
- ・文化体育観光部  www.mcst.go.kr
- ・韓国文化財保護財団  www.chf.or.kr

[自治区]

- ・チョンノグ(鍾路区)  www.jongno.go.kr
- ・ソングク(城北区)  www.seongbuk.go.kr
- ・ヨンスン(龍山区)  www.yongsan.go.kr
- ・ソデムン(西大門区)  www.sdm.go.kr
- ・チュング(中区)  www.junggu.seoul.kr

[委員会]

- ・ユネスコ韓国委員会  www.unesco.or.kr
- ・イコモス韓国委員会  www.icomos-korea.or.kr



ソウル観光案内のすべて! 120番にダイヤルして、韓国語の音声案内が流れましたら、9番を押してください (英語、日本語、中国語、ベトナム語、モンゴル語からお選びください)。

[ソウル漢陽都城ガイドブック]

発行日 2014年 5月
発行先 ソウル特別市文化観光デザイン本部、漢陽都城都監、張恩善主務官
発行人 ソウル特別市長
企画・制作 ソウル特別市文化観光デザイン本部、漢陽都城都監、張恩善主務官
デザイン aCreative

ソウル漢陽都城 周辺の観光名所

0-9	1・21事態の松	18	国立現代美術館・トッスグン(徳寿宮)館	38
	4・19革命記念会館・図書館	38	サ	
A-Z	Dilkusha(ベンチョンドン(杏村洞)テイラー家屋)	42	サジク(社稷)近隣公園	42
	Nソウルタワー	36	サジクダン(社稷壇)	42
ア	アルコ美術館	26	サムソン(三仙)サンサン(想像)子供公園	26
	アン・ジュングン(安重根)義士記念館	36	サムチョン(三清)公園	20
	アングクドン(安国洞)ユン・ボソン(尹潽善)の家	20	サムチョンガク(三清閣)	20
	アンピョンデグン(安平大君)・イ・ヨン(李瑈)の家跡(付岩洞)	44	三軍府総武堂	26
	イガンスムン(二間水門)	30	サンホ イ・テジュン(尚虚 李泰俊)の家屋	22
	イヌアンサン(仁王山)・スソンドン(水声洞)溪谷	44	ジェドン(齋洞)観光案内所	20
	イヌアンサン(仁王山)曲城	44	スクチョンムン(康靖門)	20
	イヌアンサン(仁王山)公園	42	スクチョンムン(康靖門)案内所	20
	イヌアンサン(仁王山)国師堂	42	スピョギョ(水標橋)	34
	イヌアンサン・キチャバウィ(仁王山汽車岩)	44	スンニェムン(崇礼門)	38
	イヌアンサン・ソンバウィ(仁王山禪岩)	42	セクム子供公園	36
	イヌアンサン・ボンバウィ(仁王山虎岩)	44	ソイムン(昭義門)の跡地	38
	イヌアンサン・モジャバウィ(仁王山帽子岩)	42	ソウルムンミョ(文廟)及びソンギュングァン(成均館)	22
	イファ(梨花)女子高等学校	38	ソウル広場	38
	イファ(梨花)女子高等学校・シンブソン記念館	38	ソウル気象観測所	42
	イファジャン(梨花荘)	28	ソウル歴史博物館	42
	イファマウル(梨花村)	28	ソウル市立チョンドク(正誨)図書館	20
	イルカ憩いの場	18	ソウル市立ナムサン(南山)図書館	36
	イルソク(一石)記念館	26	ソウル市立美術館	38
	ウォラム(月岩)近隣公園	42	ソウル市庁(新庁舎)	38
	オガンスムン(五間水門)の跡地	30	ソウル新羅ホテル	34
カ	韓国銀行本館	36	ソウル駅	38
	カンソン(澗松)美術館	22	ソウル演劇センター	22
	旧工業伝習所本館	28	ソウル定都600年のタイムカプセル	34
	旧ソウル駅舎(文化駅ソウル284)	38	ソクパジョン(石坡亭)(ソウル美術館)	18
	旧ソウル市長公館	22	ソコジョン(石虎亭)	34
	旧ソウル大校本館	28	ソシジョン(序詩亭)	44
	旧ソ産婦人科病院	30	ソソムン(西小門)歴史公園	38
	旧ロシア公使館	38	ソンジャムダンジ(先蚕壇址)	22
	キョンギョジャン(京橋荘)	42	ソンナグォン(城楽園)	22
	キョンヒグン(慶熙宮)	42	ソンプク(城北)区立美術館	22
	キョンボックン(景福宮)西側の韓屋村	42	ソンプク(城北)友情の公園	20
	キョンモグン(景慕宮)の跡地	26	ソンプクチョン(城北川)水源地	20
	ギルサンサ(吉祥寺)	22	ソンプクドン(城北洞)イ・ジョンソク(李鍾奭)の別荘	22
	クァンヒムン(光熙門)	30	ソンプクドン(城北洞)チェ・スヌ(崔淳雨)家屋	22
	クァンファムン(光化門)広場	38	タ	
	クァンファムン(光化門)総合観光案内所	38	大韓医院(ソウル大学校病院附設病院研究所)	26
	クォン・ユル(權閑)都元帥家跡・ベンチョンドン(杏村洞)	42	大韓商工会議所	38
	訓練院公園	30	大韓聖公会ソウル主教座大聖堂	38
	国立劇場	34	チェ・ギョウシク(崔圭植)銅像	18
	国立現代美術館・ソウル館	20	チャジドンチョン(紫芝洞泉)	26
			チャムドゥボン(蚕頭峰)フォトアイランド	36
			チャンイムン(彰義門)	18

	チャンイムン(彰義門)案内所	18	ナンデムン(南大門)市場観光案内所	38
	チャンシンドン(昌信洞)ボンジェマウル(縫製村 採石 場の跡地)	28	ハ	
	チャンスマウル(長寿村)	26	漢陽都城博物館(ソウルデザイン支援センター)	28
	チャンチュン(獎忠)体育館	34	バク・ノス(朴魯菊)家屋(チョンノ 鍾路区立バク・ノス美術館)	42
	チャンチュンダン(獎忠壇)公園	34	バンゲユン・ウンニョル(潘溪 尹雄烈)の別荘(アムドン(付岩洞))	44
	チャンチュンダン(獎忠壇)碑	34	バンヤンツリークラブ&スパソウル	34
	チャンチュンドン(獎忠洞)豚足店通り	30	ビウダン(庇雨堂)	26
	チャンドク(昌徳)女子中学校	38	ピョンファ(平和)市場	30
	チャンドックン(昌徳宮)	22	ビルドン(麗雲洞)ホン・ゴニク(洪建喆)家屋	42
	チュンウン(淸雲)公園	44	ブアム(付岩)薬用水源	44
	チュムン(忠武)アートホール	30	ブアムドン(付岩洞)ベッソクドンチョン(白石洞天)	18
	チョンウンデ(靑雲台)	18	ファンハクチョン(黄鶴亭)	42
	チョング(淸濁)広場	38	ブガク(北岳)八角亭	20
	チョンドン(貞洞)公園	38	ブクチョン(北村)文化センター	20
	チョンドン(貞洞)教会	38	ブクチョン(北村)韓屋村	20
	チョンドン(貞洞)劇場	38	ブクチョン村	22
	チルベ(七牌)市場の跡地	38	フニンジムン(興仁之門)	30
	テハンノ ミュージカルセンター	26	ベガク(白岳)マル	18
	テミョン通り	22	ベガク(白岳)憩いの場	18
	トッスグン(徳寿宮)	38	ベガク(白岳)曲城	18
	トニムン(敦義門)の跡地	42	ベガク・チョッテバウィ(白岳・ろうそく立て岩)	20
	トンデムン(東大門)観光案内所	30	ベクボム(白凡)広場	36
	トンデムン(東大門)歴史館1398	30	ベジェ(培材)学堂東館・ベジェ(培材)公園	38
	トンデムン(東大門)歴史文化公園(旧トンデムン運動場の跡地)	30	ベッサ・イ・ハンボク(白沙李恒福)の家の跡地 ビルンデ(麗雲台)	42
	トンデムン(東大門)城郭公園	28	ヘファムン(恵化門)	22
	トンデムン(東大門)総合市場	30	ホンジムン(弘智門)とタンチュンデソン(蕩春台城)	44
	トンデムンデザインプラザ(DDP)	30	ホンドク(弘徳)の畑	28
	トンピョンファ(東平和)市場	30	ホンバドン(紅把洞)ホン・ナンバ(洪蘭坡)家屋	42
ナ	トムン(東門)市場	30	マボ(麻浦)チェ・サヨン(崔思永)故宅(ソンプクドン(城北洞))	22
	ナッサン(駱山)公園ノリマダン	26	マルバウィ案内所	20
	ナッサン(駱山)第1・2・3展望広場	26	マロニエ公園	28
	ナッサンジョン(駱山亭)	28	マンヘハン・ヨンスン(萬海 韓龍雲)のシムジャン(尋牛荘)	22
	ナムサン(南山)・フェヒョン(会賢)裾の遺構発掘現場	36	ミョンドン(明洞)観光案内所	36
	ナムサン(南山) J-Gran House	34	ミョンドン(明洞)辺り	36
	ナムサン(南山)ドラマセンター	36	ミョンドン・ソングン(明洞聖堂)	36
	ナムサン(南山)ロープウェイ乗り場	36	ミョンニュンドン(明倫洞) チャン・ミョン(張勉)の家屋	22
	ナムサン(南山)野生花公園	34	メボン山公園	34
	ナムサン(南山)野外植物園	34	モンミョッサン(木覓山)烽燧跡の跡地	36
	ナムサン(南山)展示館	34	ヤ	
	ナムサン(南山)八角亭	36	ユ・グァンスン(柳寛順)記念館	38
	ナムサンコル・ハノクマウル(南山韓屋村)	34	優秀景観眺望名所(ソンプク(城北)区)方向	20
	ナムジ(南池)の跡地	38	優秀景観眺望名所(チョンノグ(鍾路区)方向)	20
	ナムピョンファ(南平和)市場	30	優秀景観眺望名所(ソングァク(城郭)マル)	34
	ナンソムン(南小門)の跡地	34	ユン・ドンジュ(尹東柱)文学館	18
	ナンデムン(南大門)市場	38	ユン・ドンジュ(尹東柱)詩人の丘	44
			フ	
			ワリョン(臥龍)公園	22